

2006年9月4日(月)長門市通(青海島) 鯨供養

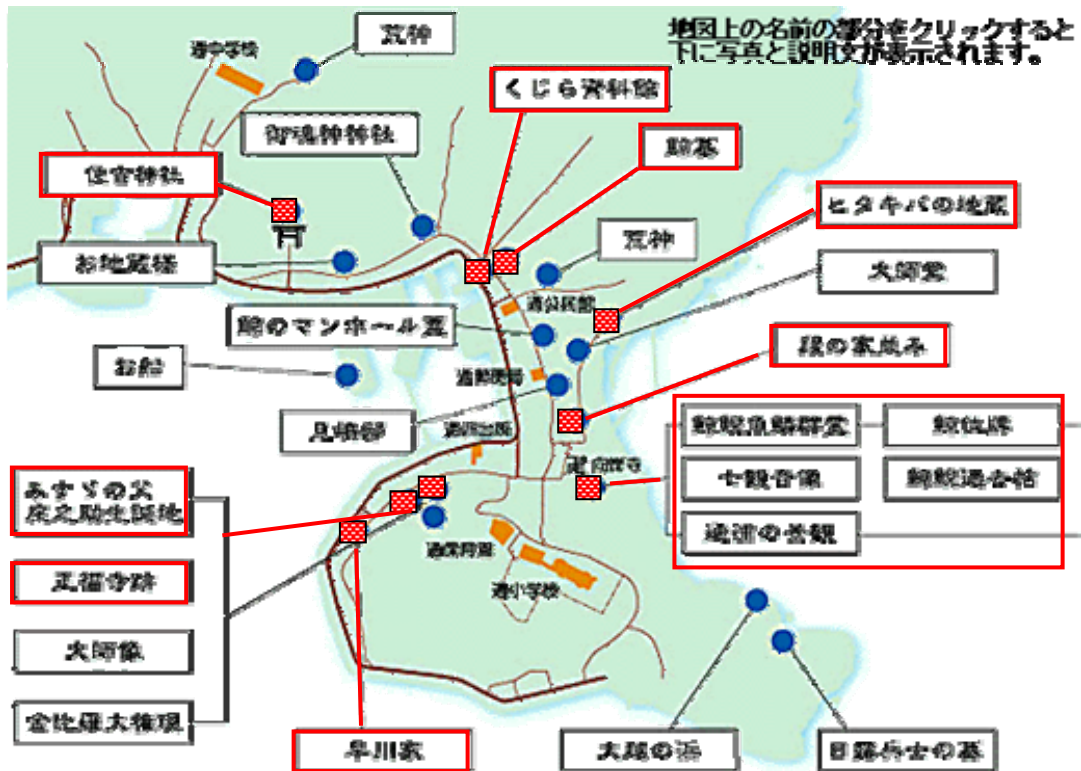
海雲山向岸寺 〒759-4107 山口県長門市通 936 TEL:0837-28-0064 FAX:0837-28-0085

くじら資料館 〒759-4107 山口県長門市通 671-17 TEL/FAX.0837-28-0756

鯨墓 1692(元禄5)年建立 〒759-4107 山口県長門市通 662

住吉神社 1658(万治元)年造立

青海島 大日比 法船庵 長門市仙崎大日比 2223 TEL0837-26-0675



「古式捕鯨の里マップ」 <http://member.hot-cha.tv/~htc09819/map.html> を元で作成



万治元(1658)年 6月29日造立 7/21-2 祭り



元禄 5(1692)年向岸寺 5世讃誉上人清月庵 重文



文久 3(1863)年願主早川家 13 源治右エ門 向岸寺



海雲山般若院向岸寺 室町前期の応永 8(1401)年、西福禅寺という禅宗寺院として開創。天文 7(1538)年、浄土宗忠譽英林上人により再興
松村賢正 (けんせい) 住職



くじら資料館 平成 5(1993)年 捕鯨用具(国重文)



早川家(18世紀後半) 国重文



大日比の尼寺 法船庵(魚鱗の霊を弔うため娘たちを出家させた。100名を超える尼たちがいたという)

調査報告

1. インタビュー

(1) くじら回向はいつ始まったのか？ [藤井館長より回答]

—地域の行事としては：讃誉上人入寂(1734年)後、浦の行事として鯨回向を行ったのがはじめである。回向自体はそれ以前に讃誉上人が隠居所 清月庵観音堂で行っていた。

(2) 現在法要の施主（あるいは主催者）はどなたか？[松村上人より回答]

—向岸寺主催の浦の行事である。以前は5日間通ったが現在は1日。

(3) 鯨供養に参加するのはどのような人でしょうか？[松村上人より回答]

—漁業関係者（羽織を着て法事に行ったとのみずゞの詩あり）

(4) 現在捕鯨文化は継承されているのか？

—2006年5月25日通の浦に寄り鯨があつて、解体して組合に配った。

現在もこのように寄鯨があると鯨を取る。

このときは松村誓誉上人が漁業関係者の希望を受けて26日に戒名をつけた。

・ 値遇妙心 メスの子ども鯨 4m あまり

* 「妙」は鯢(メス鯨)につける。

* 成鯨には「誉」（浄土宗の位の高い法号）の字がつく。 誓誉上人代の過去帖(写真右)



(5) 子供たちに鯨供養に対してはどのように受け継がれているのか？[藤井館長より]

—小学校3年から中学生までは総合学習で「通鯨唄」を習う。

網頭 早川義勝氏の鯨回向の話聞いてから練習する。

中学生は住吉の祭りでこの鯨唄を披露する。(写真右)

写真は通地区発展促進協議会通地区発展促進協議会のHP

<http://member.hot-cha.tv/~htc09819/kujirauta.html> より



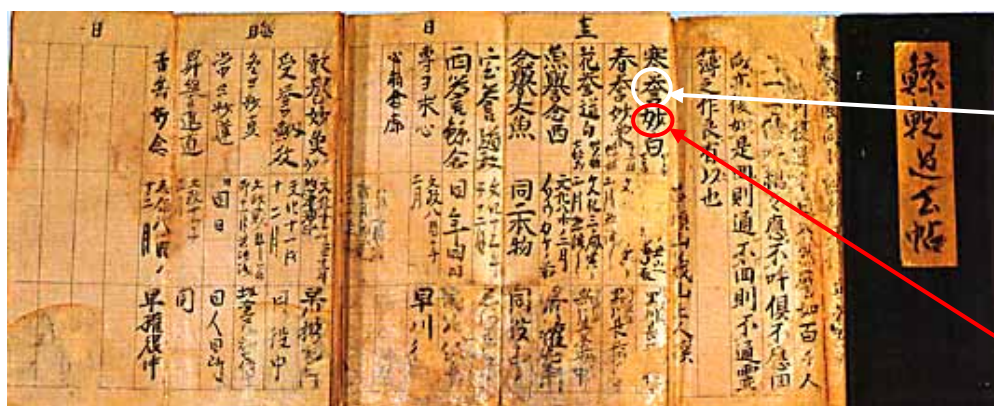
「通小学校では、三年生以上を対象に総合学習で郷土の民謡「鯨唄」を学んでいます。学校での発表会や地域行事の催しで発表しています。毎年3月の始めに、全校生徒の前で「鯨唄」指導者をお招きし、後輩達に「鯨唄」の引継しが厳粛に行われます。」HPより

2. 拝観させていただいたもの

鯨位牌(本堂) 鯢鯢過去帖(客殿でマスク手袋着用にて)

[共に写真撮影は控えた。通地区発展促進協議会のHP 写真を転写

<http://member.hot-cha.tv/~htc09819/kako.html>



成鯨につける

メス(鯢)につける

3. 新資料

公開されていない『鯢鯢過去帖』跋文 華頂山 義山上人撰 を書き取らせていただく。

衆生の心となすは譬へば 百千燈を一室の
中に於て點ずるに 燈々相照し光明周徧す
るが如く 彼心此心 混ぜず、離れず、俱に
徧法界、無障無礙なり。
是によりて正念に回向すれば、則ち所とし
て通ぜずと云ふ事なし。
若し然らば、鯢兒(鯢?)の爲に回向すれば
復、通ぜずと云うことあるべからず。
然れば譬へば百千人の如く、一を呼べば一
應じ、総を呼べば総應ず。
呼ばざれば、俱に應ぜず。回向も亦復、是
くの如し。回すれば即ち通じ 回せざれば即
ち通ぜず。靈簿として之を作る。良(まこと)
に以(ゆえ)ある也

華頂山 義山上人撰

松村誓誓上人はこの跋文の「一を呼べば一應じ、総を呼べば総應ず。呼ばざれば、俱に應ぜず。回向も亦復、是くの如し。」という件が特にすばらしいとおっしゃった。

4. 用意したインタビュー以外の新知見

(1) 鯨墓と鯨鯢過去帖は一对であろう (©2006 岡田)

鯨墓は向岸寺ではなく、鯨組池永家出身の 5 代住職讃誉上人の隠居所清月庵にある。この墓には胎児ばかりが納められているらしい。(先代の小松住職によると胎児は戒名をつけないで墓に祀っただけだという。)

一方過去帖には「誉」号のついた成鯨と、ついていない子鯨が記されている。つまり、墓と過去帖を合わせて鯨回向されるわけである。

(2) 鯨位牌と鯨墓に共に彫られている刻文は諏訪勘文

「業盡有情 雖放不生 故宿人天 同証佛果」は諏訪の勘文と呼ばれるもの。

諏訪の勘文に関しては三浦寿美子 「中世・近世の肉食に関する思想史的考察—諏訪の勘文の伝播を中心に—」(2000 年度岩手大学人文社会科学部中村安宏研究室(日本思想史) 修士論文)があるらしい。

鯨墓には次のようにふさわしくアレンジされて解説されている

「——鯨としての生命は母鯨と共に終わったが、われわれの目的はおまえたち胎児をとることではなかった。むしろ、海へ放してやりたいのだが、広い海へ放たれても、独りではとても生きてはいけまい。それ故に、われわれ人間と同様に念仏回向の功德を受け、諸行無常の悟りを得てくれるようお願いする——(照誉得定師解説)

(3) 鯨墓は海に向いている

鯨の胎児は一度も海を見たことがない。せめて墓は海に向けて、胎児たちが海をみられるように、との思いがあった。この話は小学校の低学年児童にしても理解される(藤井館長談)

5. 謝辞

厳かな雰囲気の中本堂の鯨位牌におまいりを許してくださり、また客殿で懇切な解説と共に鯨鯢過去帖をお示しくくださった向岸寺住職松村賢正誓誉上人、

くじら資料館内は言うに及ばず、通の段町、段浦海岸、網頭の墓所、早川家、正福寺、大日比の法船寺、さらには鯨法会の詩もある金子みすゞゆかりの地までお連れ下さってご説明くださった藤井文則館長先生(お祖父さまがみすゞの従兄弟)、

突然の訪問であったにもかかわらず、座敷に上げてくださって鯨組の心意気をお示しくくださった早川家 18 代目当主義勝様にこころより感謝します。

今回の訪問を通じて、通の鯨組の誇り高き勇者たちが、いのちをかけて鯨を取り、またその菩提を心をこめて弔ったことを体感した。



松村賢正(誓誉)上人と



松村上人 藤井文則館長と



早川家 18 代目当主 義勝氏